

世界遺産 富士山  
構成資産

山宮御神幸道  
山宮浅間神社

— 古代からの富士山信仰の形が今も息づく —





## 富士山信仰と 山宮浅間神社

古くから、富士山は噴火を繰り返し、人々はたびたび噴火する富士山に、怒る神の姿を重ね「富士神」として畏れていました。

山宮浅間神社は、今から約1900年前(西暦110年)に富士神の怒りを鎮めるために創られたとされており、今でも古代からの富士山信仰の姿を留めています。



— 富士山そのものを神として拝む —  
古代からの富士山信仰の姿を 今も留めている

# やま みや せん げん じん じゃ 山宮浅間神社

## ふ じ さん ようはいじよ 富士山遥拝所

山宮浅間神社には、本殿はなく、富士山そのものを神(祭神)として遠くから拝む遥拝所があります。

遥拝所は、富士山が噴火したときの溶岩流の末端にあり、長方形の石でできた柵(玉垣)で囲まれています。

柵の内部は、儀式のときの役割ごとの席が溶岩で仕切られており、富士山を拝む方向に祭壇があります。



提供

## 本殿が造られないのは

### 昔のはなし



昔から山宮浅間神社には、本殿がありません。いつの頃からか、村人たちは神社に本殿を建てようと考えました。



苦心の末、ようやく本殿の棟上げ式まで済ませました。



しかしその夜、大風が起これ本殿が吹き倒されてしまいました。その後も、何度も同じようなことが起こりました。



「これは、きっと風の神の祟りだ。本殿を造ってはいけません。」といわれるようになりました。今でも山宮浅間神社には、本殿が造られていません。



# やま みや ご しん こう 山宮御神幸

平安時代になると、富士神は「浅間大神」と呼ばれるようになりました。そして、浅間大神は、現在の富士山本宮浅間大社に遷され、山宮浅間神社は、浅間大社の「元宮」としてそのまま残りました。

明治時代の初めまで、毎年春と秋に浅間大神が山宮浅間神社(元宮)と浅間大社(里宮)を往復する「山宮御神幸」が行われていました。

山宮御神幸は、「農業の神として田植えの春に山から里に下り、山の神として収穫の秋に里から山に帰る」、「神が、昔いた場所に里帰りする」などの意味があるとされています。



提供

▲平成18(2006)年浅間大社遷座千二百年祭の際、再現された様子

## ほこ たて いし 鉾立石

山宮御神幸では、神が宿る「鉾」を左肩に載せたまま、途中肩を替えることなく、浅間大社から山宮浅間神社まで歩きました。

休憩するときには、鉾を地面へ降ろせないため、鉾立石と呼ばれる石の上に置きました。

鉾立石は、今でも浅間大社楼門前に1つと山宮浅間神社の参道に2つ残っています。



提供

▲神が宿る「鉾」と呼ばれる道具を再現したもの



▲浅間大社楼門前にある鉾立石



▲山宮浅間神社の参道にある2つの鉾立石

## ちょう め いし 丁目石

山宮御神幸で山宮浅間神社と浅間大社を往復する道を「山宮御神幸道」といい、全長50丁(約5.45km)あります。

浅間大社には、山宮御神幸道の起点の碑である首標があります。

山宮御神幸道には、1丁(109m)ごとに目印として「丁目石」と呼ばれる石碑が建てられました。

今では、丁目石のほとんどが失われています。

残っていても、場所が移されているものもあるため、山宮御神幸道の当時の正確な道筋は、はっきりわかっていません。



▲浅間大社湧玉池の首標の石碑



▲山宮浅間神社の手前にある49丁目石

## 富士山世界遺産ガイドが案内しています

土・日・祝日：10:00～15:00  
山宮浅間神社東側の案内所にいます。



### お問い合わせ

富士宮市役所  
富士山世界遺産課  
☎22-1489 FAX 22-1206

 富士山世界遺産課  
公式Twitter

富士宮を歩く すてきじかん。  
～山宮浅間神社と  
山宮御神幸道を歩こう～

動画はこちら→



写真提供：佐野雅則さん



# 山宮御神幸道マップ



ゆっくり歩いて3時間

山宮御神幸道は、5.45kmとされていますが、実際に歩くと約7kmあります。



7 市内最古の道祖神  
元禄2(1689)年造立



8 49丁目石



6 47丁目石



5 46丁目石



分岐を左へ



分岐を左へ

凡例マーク

- スーパー
- コンビニエンスストア
- ホームセンター



富士山本宮浅間大社



3 3丁目石



4 42丁目石



1 浅間大社楼門前の鉾立石



2 浅間大社の首標の石碑